

法蔵 332号 六月号

・6月12日(金)午後0時より 「定例法話会」お話ししていただく布教使さんは、中頓別町 聖福寺 内田良恵師です。順信寺がクラスターにならないように注意して行ってまいりたいと思います。御参加はマスク着用にてお願い申し上げます。

・6月15日(月)午後1時より 帰敬式事前学習会 ・6月16日(火)午前11時より 帰敬式
{いよいよ今年は帰敬式を行います。現在3名の方の申し込みがありました。受式希望の方はご連絡ください。お待ちいたしております。}

・6月20日(土)午後1時より 「永代経法要」 (布教使:浜頓別町 浄覚寺 大山智師)

・6月21日(日)午前10時より 「永代経法要」 (布教使:士別市 勝福寺 柳沢祐証師)

新型コロナウイルス対策ということから、どちらかご都合のつく日にお参りしていただければ有難いと考
えています。ハガキでの案内状の来ない方も是非ご焼香、仏法聴聞して下さいますようお願い申し上げます。お齋は両日とも、お持ち帰りいただくことといたしました。また、お齋の準備のお手伝いは今回は
ご遠慮させていただきたいと思います。

・6月28日(日)午後1時より 「親鸞聖人御命日のお参り」

・7月12日(日)午後0時より 「定例法話会」お話ししていただく布教使さんは、南富良野町 恵光寺 酒井智師です。新型コロナウイルスに注意して行ってまいりたいと思っております。

「死んだ人たちは、思い出す人がある限り、その思い出のなかに蘇る」

「いそげ、いそげに祝福はない。ゆっくり、ゆっくり、そう、(それが)歩むということ」

(「積み木」No.296より)

～「ゆっくり、ゆっくり、そう、それが人生を味わうということ」と言うスワヒリ語のことわざを見ました。このような状態の時だからこそ、この言葉を噛みしめ生活をしていきたいと思ひます。「ほれ!ほれ!」と人を急かすようなことだけは行いたくないと思ひのです。たとえ他の人に愚図と思われても良いではないですか。

その後の文に「ケニアでは、『ゆっくり』にはとても高い価値があり、スピードには優しさがなく、ゆっくりいかねば人生は味わえないという考えが人々の根っこにあるそうです。」とありました。地球の赤道をぐると一周すると約4万キロになります。一年間に車で約4万キロ走る私は地球を何周したことになるのでしょうか。いったいどんな走り方をしていたのでしょうか。今一度考えなければならぬと思うのです。

「見えないもの 見える眼

聞こえないもの 聞ける耳

知らないもの 知っている — 身体」

「自分に生きている先祖

自分に生きている子孫」

(陶芸作家 河井寛次郎)

～自分の身体は自分が思っている以上に温かく重たい存在ではないだろうか。出来る出来ない、持っている持っていない、迷惑かけている迷惑かけていない等という以前にその存在の貴重さに目覚めなければならぬのではないだろうか。そのような世界が見える眼、聞ける耳を持てる人になりたいものです。それにしても、何ともったいない日暮をしているのではないかと思います。まさに「灯台下暗し」なのかもしれません。また童話にある「幸せの青い鳥」はどこにいるのかという話でもあるのかもしれません。

「頑張つてやれよ、こっからだぞ。こっからが出発点だ。何も終着駅じゃないよ。こっから出発点だ。気持ち切り替えてやっつけていけよ、ええか。」

(明德義塾高校野球部監督 馬淵史郎)

～馬淵監督が部員に語った言葉が新聞に載っていました。上の言葉はその最後です。色々な事が中止になっていますが、ついに高校野球の夏の甲子園大会が中止になってしまいました。厳しい練習に耐えてきた彼ら、若者たちが泣いている姿を見ると、私もこみ上げてくるものがあります。彼らの人生に幸多かれと祈らずにおられませんでした。また、何かあの姿から私も力を頂いたように感じました。

・忠峰コーナー

「買った品 忘れて帰る 歳の春」

「野の山も 万緑に染め 村豊か」